用途地域

Q 佐藤　明　議員

花巻駅西側の消防署までの南北の道路沿いを第一種住居地域から近隣商業地域に変更する考えはないか伺う。

A 市　長

花巻駅西地区の松園町から消防本部までを南北に通る市道材木町・下二枚橋線沿線の用途地域を近隣商業地域に変更することについて、大きな課題はあるものの、今後のまちづくりの方向性を踏まえて変更する必要があるかどうか、あるいは住民の方々の理解が得られるか今後の検討課題と捉えている。

新花巻図書館

Q 阿部一男　議員

新図書館は木造が望まれる。木造はコンクリート造りと比べ、冷暖房効果や弾力性がよく、経費的に遜色ない上に、地元産材の利活用も期待されるが、市の考えを伺う。

A 市　長

市では国の法律に基づき、花巻市公共建築物等木材利用促進基本方針を策定し、林業振興に資するため県産木材の使用に努めてきた。今後の図書館の建築設計の時点において、ＣＬＴ(直行集成板)による建築コストおよび維持保守費用が鉄筋コンクリート造りと比較し多額でなければ検討の余地があると考えている。

農業政策

Q 近村晴男　議員

大谷翔平選手は花巻東高校時代、一日に丼飯を何杯も食べたといわれる。大谷選手と深い縁のある市として、令和３年の歴史的大活躍を称賛し、花巻産米のＰＲとして、例えば、２０２１花巻・輝き大賞と副賞に花巻産の銀河のしずく１年分を贈るなどの考えはないか伺う。

A 市　長

そのような賞を贈りたいという思いはあり、花巻産の銀河のしずくを食べていただければ大変ありがたいと思う。しかし、大谷選手からは花巻市に様々配慮いただいている。例えば、ユニフォームの展示は花巻東高校の関係者と連絡を密に取り合い、ご厚意によって展示することができた。市は応援することに徹して、大谷選手にこれ以上のことをこちらから求めるのではなく、今の非常に良い関係を維持することが大切であると考えている。

Q 阿部一男　議員

全農岩手は、令和３年産米の概算金を60kg当たり２３００円減の１万円と20%も減額になると発表した。農家への市の支援を伺う。

A 市　長

収入保険への加入促進のため、保険料の２分の１を補助する収入保険加入促進事業として３６７２万円を、検査米１袋当たり１０７円を補助する事業等の花巻米生産緊急支援事業に約１億２４８０万円を補正予算で措置した。また、主食用米から他の作物へ転換した場合、10アール当たり５０００円の支援を考えている。

兼業農家支援

Q 久保田彰孝　議員

「農業機械が壊れたら農業をやめる」という兼業農家に対し、農業機械を共同購入できる支援制度の導入について伺う。

A 市　長

県のいわて地域農業マスタープラン実践支援事業を活用した農業機械等への支援、市単独の花巻市農業用ロボット・情報通信技術機器導入支援事業により、兼業農家を含めて支援している。意欲ある農業者を人・農地プランの中心経営体に誘導しながら、農業機械の共同購入に対して各種補助事業を活用し支援したい。

スマート農業、体験試乗会

医療的ケア児支援

Q 菅原ゆかり　議員

重い病気のある兄弟姉妹がいる「きょうだい児」への支援について伺う。

A 市　長

きょうだい児に対しての直接的な支援は行っていないが、国や県において対策を検討している状況である。県とも連携を取りながら、支援策があるかどうか関係機関と検討していく。

※きょうだい児とは＝障がいや重い病気を持った子の兄弟姉妹

子宮頸がん予防ワクチン

Q 菅原ゆかり　議員

子宮頸がん予防ワクチンを受けられなかった年代のキャッチアップ制度導入後の市の取り組みについて伺う。

A 市　長

平成25年度に16歳に達し、ワクチン接種の機会を逸した平成９年生まれから平成17年生まれまでの９学年を最大に、国では何案か検討していると聞いている。現時点では決定されておらず、本市でも国の制度が明確になった後、県や他市町村の対応状況を踏まえ必要に応じて検討していく。

骨髄移植ドナー支援

Q 照井明子　議員

骨髄移植を必要とする患者に適合したドナーに対して、助成金を新設する考えについて伺う。

A 市　長

県では岩手県骨髄ドナー支援事業補助金制度を令和２年度に創設しており、同様の事業を、金ケ崎町、野田村が実施している。ドナー登録者を継続的に確保していくことは大変大事であり、骨髄提供者の負担を軽減し、骨髄を提供しやすい環境を整える必要があると認識している。市として、他の自治体の取り組み状況と効果等を参考にし、助成制度導入について検討していく。

骨髄バンク登録を呼びかける日本赤十字社のパンフレット

子ども医療費助成

Q 照井明子　議員

所得制限や受給者負担をなくし、18歳までの子ども医療費無料化の実施の考えについて伺う。

A 市　長

医療費助成は、国が推進すべきものであるが、国の助成が行われるまでの間、小・中・高校生の助成について将来の市の財政に過度な負担をかけない範囲で令和４年度予算においてさらに拡充することを検討する。まずは所得制限をなくすことを協議していきたい。

新型コロナウイルス感染症対策

Q 照井省三　議員

新型コロナウイルス感染症対策における追加接種（３回目接種）の優先接種の考え方について伺う。

A 市　長

３回目の接種間隔は、２回目接種完了後、原則８カ月以上と国から示されている。12月６日から医療従事者を対象に接種をはじめ、91歳以上は令和４年１月下旬から、75歳～90歳は２月上旬から、65歳～74歳は３月上旬から、60歳～64歳は４月下旬から、18歳～59歳は５月中旬からを予定している。

３回目のワクチン接種が始まっています（昨年の集団接種会場）